

陳 情 文 書 表

受理番号	1954	受理年月日	令和6年7月2日
件名	中国で不法に逮捕された母の救出の要請		
要旨	<p>私は、10年前、留学のため中国宝鶏から来日した。今は東京都に住み、メディアに勤務している。中国で逮捕・勾留されている母の救援に御協力をお願いする。</p> <p>母は61歳で、陝西省宝鶏市に住んでいる。2024年4月11日に、母が友達の家に行った際、法輪功を修練していることを理由に現地の警察に押し入れられ、強制連行され、現在宝鶏市第二留置場に拘束されている。</p> <p>元々体が弱い母は34歳（私は5歳）のとき、病院で心室性期外収縮と診断され、多くの医学専門家に診てもらったが、改善しなかった。1998年に父の同僚に法輪功を紹介され、真、善、忍の教えに感心した母は法輪功を始めた。幸運なことに母は奇跡的に快復しただけでなく、その後20数年にわたり、一度も病院に行くことなく、健康を維持してきた。</p> <p>しかし、1999年7月20日、当時の国家指導者は嫉妬心から法輪功への残忍な迫害を開始した。拷問迫害による死亡者は、身元が確認できた人数だけでも5,000人以上に達しており、実際の人数は統計することすらできないと言われている。2023年、陝西省では、少なくとも215人の法輪功学習者が迫害を受けている。そのうち、二人が死亡し、63人が不法に収容され、13人が不法に逮捕され、12人が不法に裁判に掛けられ、47人が不法に家宅捜索され、63人が嫌がらせを受け、4人が放浪生活を余儀なくされ、一人が精神病院に収容されている。また、大連市長は法輪功学習者から生きたまま臓器摘出を行うことを考え、それを瞬く間に全国に広め、臓器摘出から遺体の販売まで一貫して行う殺人産業を形成し、地球上にかつてない邪悪を作り出した。</p> <p>中国共産党政府の血に染まった手によって、健康体となった母から臓器が収奪される可能性さえある。そして、母が1日でも長く勾留されれば、その分、拷問に遭うリスクも高くなる。</p> <p>私は母と一緒に法輪功を修練していたため、もし日本から中国に帰れば、飛行機から降りた途端に逮捕されるおそれがある。そのため、この10年間、親族が亡くなったときも中国に帰ることができなかった。</p> <p>ついては、母の不法逮捕によって、悲しみと不安と無力感にさいなまれている私に、どうか力を貸して下さるよう、以下のことを切に願う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人道的な立場から不当な扱いを受けている母の境遇に関心を持っていただき、一刻も早く救出すべく、駐日中国大使館、在中国日本大使館及び日本の外務省に働き掛けること。 2 国に母の早期救出を求める意見書を提出すること。 		
陳情者			
回付委員会	総務消防委員会		